

● 若年性認知症とは

18 歳から 64 歳までの世代に発症した認知症を若年性認知症といいます。若年性認知症は、全国で 35,700 人いると推計され(※1)、兵庫県下では 1,600 人いるものと推計されます。例えば、55歳～59歳の世代では、10 万人に約 110 人の割合(1,000 人に 1,10 人)で発症する(※2)とされており、この世代は、家庭や社会で重要な役割を担っていることから、本人はもとより家族や職場へ大きな影響を与えます。

※1, 2 「若年性認知症の実態と対応の基盤整備に関する研究」

(厚生労働省令和2年3月発表)

● 診察を受けましょう

早期発見・早期治療は、病気の進行を遅らせたり症状を改善させたりするだけでなく、状態によっては治るものもあります。早期に診断を受け、治療を開始することで、適切な治療環境を見つけ、将来の生活に向けた準備を進めることにもつながります。

● 認知症のチェックリスト

次のような変化が現れたら認知症を疑って受診をしましょう。

- 同じことを何度も聞く
- 伝言したことがうまく伝わらない
- 電車・バスで乗る駅や降りる駅がわからない
- よく知っている道なのに迷ってしまう
- 通帳、印鑑、財布などをよく失くし、家族が盗ったという
- いつも同じ服を着て着替えたがらない
- 家電製品の使い方がわからない
- テレビや新聞を見なくなる、関心がなくなる
- 風呂に入りがらない
- 好きだった趣味の活動をしなくなる
- 鍋を焦がす、ガスの火を消し忘れる、水道の水を出しっぱなしにする
- 外出したがらない

(引用：全国若年性認知症支援センター)

上記の症状は全てではありませんが、3 項目以上思い当たるようなことがあれば、まずはかかりつけの先生や専門の病院に受診しましょう。

受診の際には普段気になっている症状をメモして持参すると良いでしょう。